

2010年に輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2010年、我が国には、貨物70.8万件、携帯品21.8万件、国際郵便物8.9万件、計101.5万件の植物が輸入されている。これらの植物からは、我が国が特に侵入を警戒する重要な病害虫が数多く発見されている（下表参照）。特に、携帯品として約2.4万件の輸入禁止生果実が持ち込まれ、これからの発見が多い。植物防疫所では、植物検疫制度の周知、輸入禁止生果実についての広報などを行い、病害虫の侵入防止に努めている。

	発見病害虫名	主な寄主植物（発見植物）	主な輸出国・地域
輸入禁止対象病害虫	<i>Ceratitis capitata</i> チチュウカイミヅ（3件）	トウガラシ生果実、マンゴウ生果実、マンゴウ属生果実	ガーナ、ボリビア、ペルー
	<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex ミカンコシロハシ（149件）	マンゴウ生果実、ハシロウ生果実、ハレシ生果実、レンプ生果実、トウガラシ生果実、コレンシ生果実、マンゴウ属生果実、アセロラ生果実、レイシ生果実、その他生果実17種	ベトナム、タイ、フィリピン、台湾、インドネシア、中国、その他4か国
	<i>Bactrocera cucurbitae</i> ウリミヅ（5件）	ササゲ生果実、ニガウリ生果実、ヘチマ生果実、ボインテッドゴード生果実	タイ、ベトナム
	<i>Bactrocera tryoni</i> クインスランドミヅ（2件）	ハレシ生果実、マンゴウ生果実	ニュージーランド、オーストラリア
	<i>Cylas formicarius</i> アリモドキナムシ（4件）	サツマイモ、ココヤシ生果実※	タイ、中国、ベトナム、ウガンダ
特定重要病害虫	<i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミヅ（4件）	ハシロウ生果実、マンゴウ生果実	ブラジル、ペルー
	<i>Diabrotica undecimpunctata</i> ※ ジュウイチホシウリナムシ（3件）	コリアンダー茎葉、セロリ茎葉、タチシヤ茎葉	米国
	<i>Otiophorus ovatus</i> ※ イチゴクチブソナムシ（1件）	ブコラ切枝	米国
	<i>Ceratitis rosa</i> ナタールミヅ（1件）	マンゴウ生果実	レユニオン
	<i>Bactrocera latifrons</i> ナスミヅ（142件）	トウガラシ生果実、トウガラシ属生果実、ナス属生果実、ナス生果実、ハシロウ生果実	タイ、ベトナム、インドネシア、ネパール、フィリピン、その他4か国
重要病害虫	<i>Bactrocera correcta</i> セグロモミミヅ（37件）	ハシロウ生果実、レンプ生果実、アセロラ生果実、マンゴウ生果実、ハレシ生果実、スターアップル生果実、コレンシ生果実、ホーリーバシ生果実※、その他生果実5種	ベトナム、タイ、中国、カンボジア
	<i>Bactrocera zonata</i> モモミヅ（2件）	ハシロウ生果実、マンゴウ生果実	パキスタン
	<i>Bactrocera tau</i> セグロウリミヅ（2件）	ヘチマ生果実、ボインテッドゴード生果実	ベトナム、タイ
	その他の重要病害虫※ （246件）	アスパラガス、ライム生果実、テンサイ種子、フダンソウ属種子、キク属切花、カボチャ属生果実、メキャベツ茎葉、オレンジ生果実、ブロッコリー茎葉、その他植物11種	ペルー、メキシコ、米国、イタリア、オーストラリア、オランダ、韓国、マレーシア、その他4か国

※輸入検査対象植物からの発見

海外のニュース メコン河流域諸国*における *Phenacoccus manihoti*（英名 cassava pink mealybug）による被害拡大

キャッサバは我が国ではなじみの薄い作物であるが、世界中の熱帯地域で栽培されており、我が国でも、そのデンプンは食料（タピオカ）や工業用（チューブ糊）として輸入されている。また最近では、バイオエネルギー（エタノール）の原料として注目を集めており、メコン河流域諸国でも生産地域や生産量が拡大してきている。

コナカイガラムシ科の一種 *Phenacoccus manihoti* は、南米原産で、1970年代アフリカのコンゴにキャッサバ苗木に付着して侵入し、またたく間にアフリカ大陸の東から西まで分布を広げ、当地域の基幹作物のひとつであるキャッサバへ大被害を与え、同地域の食料供給に深刻な影響をもたらした。

メコン河流域諸国の一国のタイでは、*P. manihoti* を検疫有害動植物に指定し侵入を警戒していたが、2008年にタイにおいて初めて確認され、当地のキャッサバの生産に打撃を与えている。生産量世界第3位のタイでは、これまでもキャッサバの害虫として、*Ferrisia virgata* や *Phenacoccus madeirensis* などのコナカイガラムシは存在していたが、*P. manihoti* が新たに侵入・まん延したことにより、茎葉の吸汁による被害が広がり、その結果、地中のイモは栄養不足となり単収やデンプン質量が減少し、

2009/10年にはそのデンプン生産が3割減となった。

2010年までに、タイ産の苗を使っていたタイ隣国のカンボジアやラオスのキャッサバ生産地でも *P. manihoti* の発生が確認され、その他のメコン河流域諸国への被害拡大が危惧されている。



図 キャッサバ葉に付着する *P. manihoti* (Y. Piao氏 (FAO/UN) 写真提供)

被害の拡大を防ぐため、国連食糧農業機関(FAO/UN)は、2011年よりメコン河流域諸国に対しアフリカで被害抑制に成功した実績のある *P. manihoti* の天敵である南米産の寄生ハチ *Anagyrus lopezi* (トビコバチ科の一種) を利用した生物防除のプロジェクトを開始した。この寄生ハチは、*P. manihoti* に卵を産みつけて寄生することにより個体数を減らす効果がある。本プロジェクトは寄生ハチの大量生産及び放飼技術の向上を目指したもので、今後の成果が期待されるところである。

*メコン河流域諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム、中国雲南省）

発行所 横浜植物防疫所

発行人 川口 嘉久

編集責任者 藁谷 一馬

掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>